6.29理工兑決起集会へ

若き戦士
6/29
No.10
社会主義学生同盟日大支部

サークル室解放斗争の前進にふまえ6.29理工兑決起集会に結集せよ!

理工学部の全ての学友諸君!

既に御存知の如く、去る22日、理工学部サークル連絡協議会は、本年4月以降 理工学部当局-権力の手中にあった9号館サークル室を大衆的な決起を持って実力で解放した。が、当局は再びサークル室を閉鎖した。我々はこれに抗議し、直ちに1号館学部長室、評議室の封鎖を貫徹した。我々はかってのサークル室が、実存主義と語り合いのサロン的逃避の場へと転落してゆかざるを得なかった事の問題を深刻にとらえなければならない。学友諸君! 振り返ってもみたまえ、東大、日大斗争の二年有余の斗いの地平に刻み込んだ斗う者達の告発と血と汗の代償を! 我々自身のブルジョア的幻想と欺瞞を引き剥すのに何と多大な痛みを味わった事かを! サークル室とその解放斗争は決して、なるものであってはならないし、サークル室を現在の政治、社会、文化領域に対する告発と否定と変革と創造の拠点へとその位置を確定して、学園を越えるサークル的の論理とその斗いの方向性を提出していかなければならない。でなければ解放斗争は物とり斗争へ転落する事は必然の過程としてである。

6.29サー連協の対教授会団交に呼応し大学の全ゆる矛盾を更に引き裂け!

学友諸君!

既にサー連協は、この間のロックアウト責任追求とサークル活動弾圧に対し、6.29対教授会団交を設定している。ロックアウト粉砕・サークル室解放斗争の前進は今、理工教授会を見るも無惨にその醜悪な姿をさらけ出させている。「教授会で賛成0、反対0でロックアウト」、自主規制日和見はまうない(教学部主任)なる暴言を見よ! 更に又、理工当局は自らの仔猫たち(日共・右翼)を動かし、内部から自治会建設策動を、そして理工九号館空地を中心とした、大学院大学建設構想=日大新二千年計画なるものを、着々と推し進めている意図を明らかになった。全てが明らかにされようとしている。権力-当局の走狗、教授会-日共-右翼のその正体を、全ての学友諸君、更に引き裂け! もっと巨大な怒りをたたき込め! 6.29団交を契機として、教授会の4月以降のサークル室の閉鎖-サークル活動弾圧、5.23 5.27、5.11~14、そして今日にわたる安保決戦期学園ロックアウトという権力と癒着した明確な政治弾圧のその本質を明らかにさせて、責任を追求せよ!

安保、沖縄斗争を更に推進せよ!

学友諸君! 22日に発表された政府声明によって、安保条約は自動延長となった。そしてこの事を弾劾し、今日更に斗い抜かんとする160名の学友諸君の決意を持って理工学部斗争委員会は6.23集会を斗い抜いた。我々は再度宣言しなければならない"安保斗争は今まさに開始されなければならない"と。安保斗争とはアジアにおける革命斗争の前提の中で、そしてアジア会議において示されたように日本帝国主義が、アジア反革命者としての意志を大きく示し始めたこの時期に、この日本帝国主義を打倒し、解体する斗いとしてなければならない。今日安保-沖縄の位置は、インドシナ革命戦争への反革命軍事戦略を断ち切るものとして"政治的決戦"へと突き進みつつある。佐藤ブルジョア政治委員会は、沖縄の地方自治体化=一体化を72年返還の方途にしている。今なる第三次琉球処分=72年沖縄帝国主義的返還の過程の進行に対する我々の準備の内実は、米日琉「三日会議粉砕」-「沖縄返還粉砕」を基軸にする斗争の質的飛躍として設定されねばならず、場所的、空間的政治価値=一体化論の粉砕たるインドシナ革命戦争との等価性獲得でなければならない。